

健康にアイデアを

**meiji**

# CARBON NEUTRALITY BY 2050

2050年カーボンニュートラル  
社会に向けて

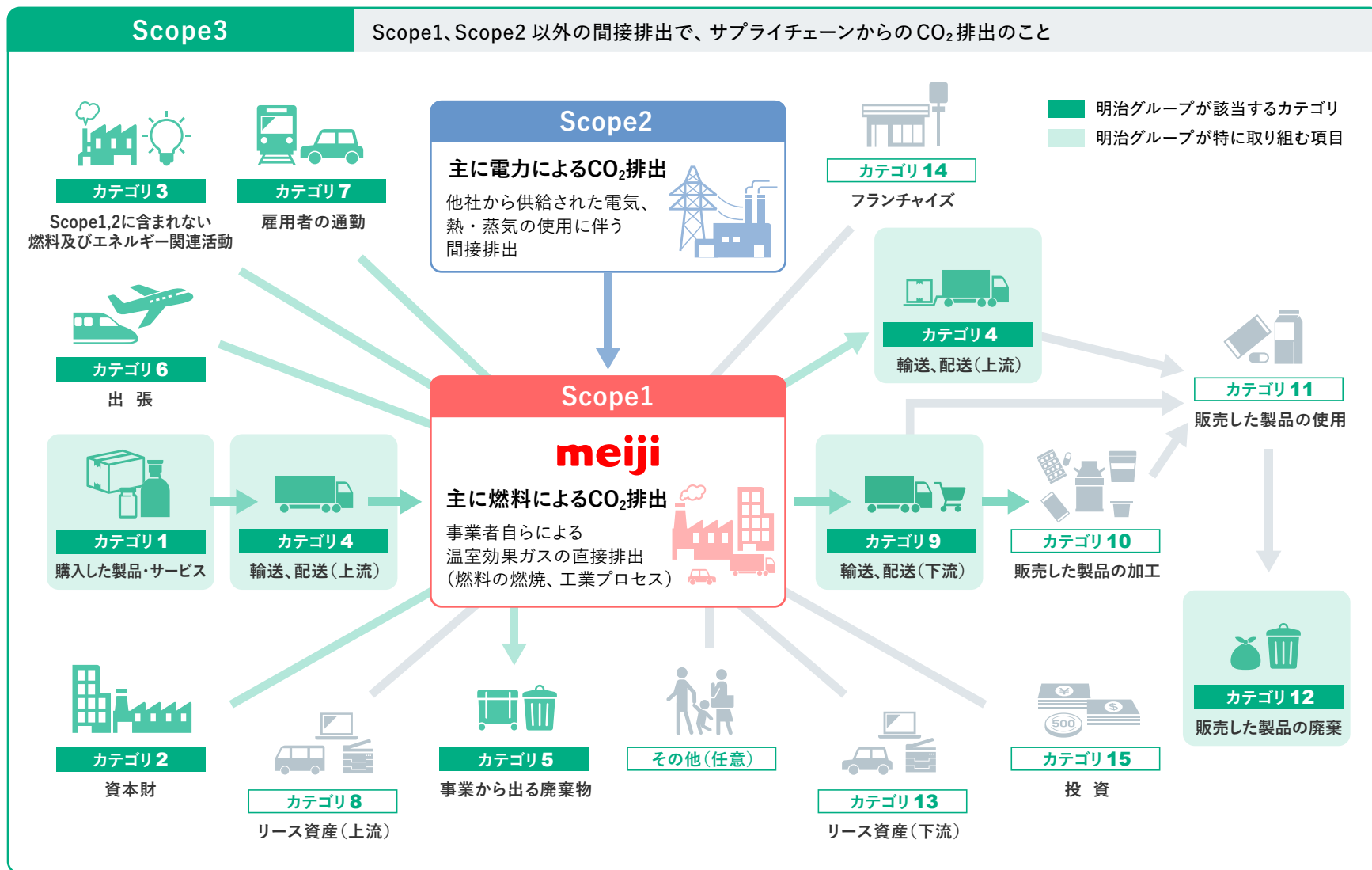
# 「カーボンニュートラル」社会に向けて

明治グループは、生乳やカカオや乳酸菌、微生物に代表される豊かな自然の恵みの上に成り立っています。そのため私たちは、地球環境と共に生き、自然と共生していくことが責務であると考えています。

しかし、近年、気候変動などの要因により地球環境の持続可能性が危ぶまれています。明治グループでは、気候変動の主な原因物質であるCO<sub>2</sub>をサプライチェーン全体でゼロにする「カーボンニュートラル」社会を目指した取り組みを進めており、このほどその実現に向けたロードマップを策定いたしました。



# 明治グループが対象とする3つのスコープ



# ロードマップにおける2つの目標

## 1 Scope1、Scope2 における カーボンニュートラルを目指す

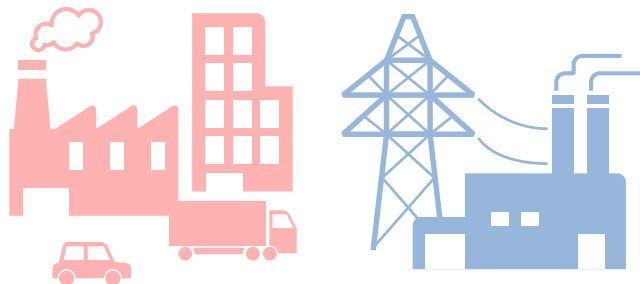
温室効果ガス排出量（2019年度比）

2030年度

**50%削減**

2050年

**実質0**を実現



## 2 Scope3 における カーボンニュートラルを目指す

温室効果ガス排出量（2019年度比）

2030年度

**30%削減**

2050年

**実質0**を実現



明治グループが特に取り組む項目



# ロードマップ | Scope1、Scope2

## 目標

### 1 Scope1、Scope2 における カーボンニュートラルを目指す

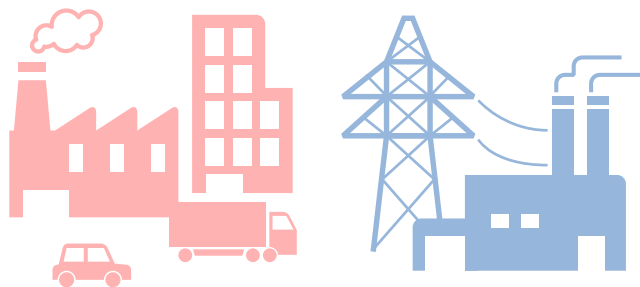
温室効果ガス排出量 (2019年度比)

2030年度

**50%削減**

2050年

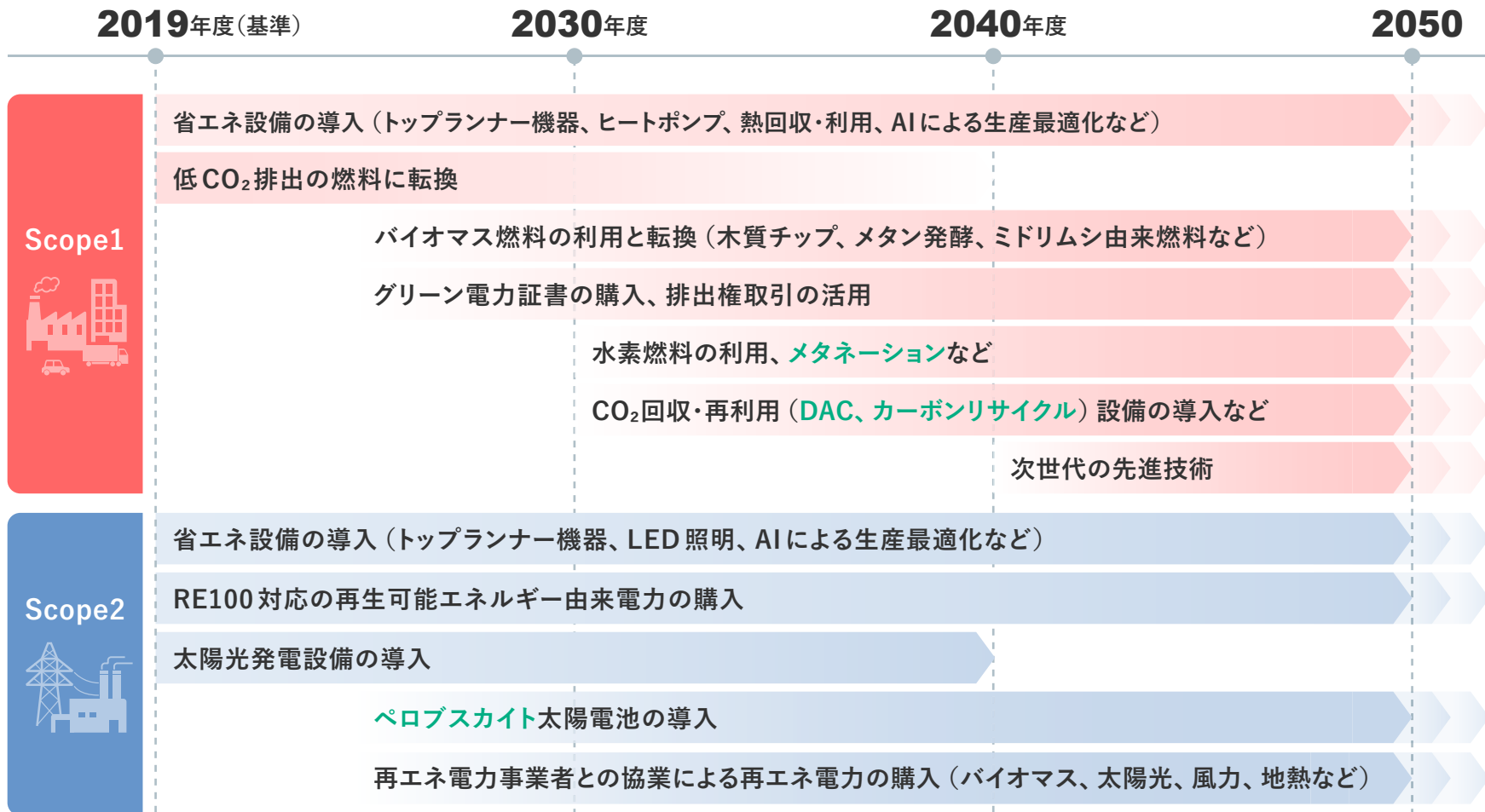
**実質0** を実現



- 1 太陽光パネル
- 2 風力発電
- 3 メタン発酵処理設備
- 4 水素燃料
- 5 地熱発電

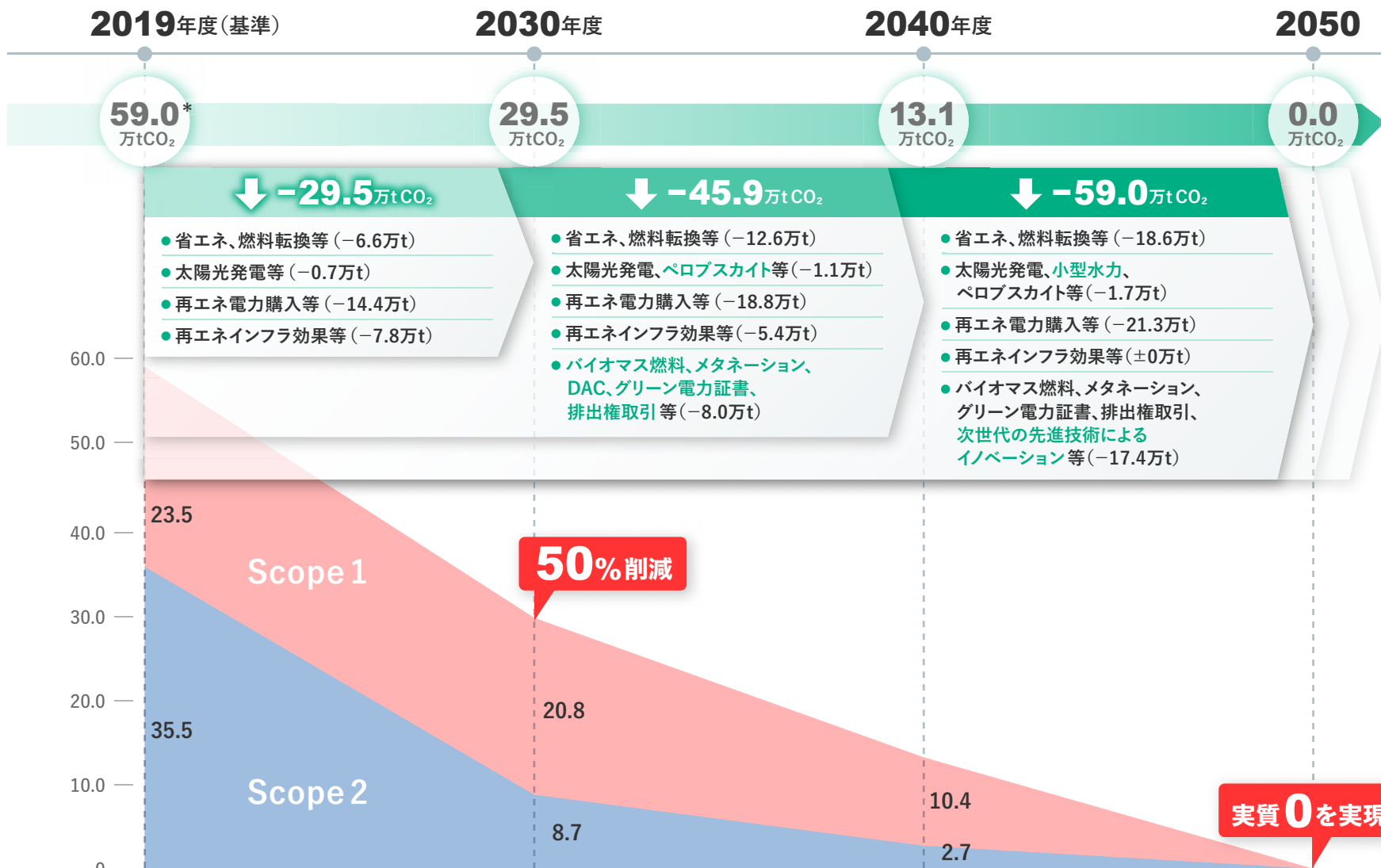
# ロードマップ | Scope1、Scope2

「長期環境ビジョン」で掲げた2050年カーボンニュートラル社会の実現に向けて、積極的な取り組みの実施と新技術の導入を図っていきます



\* グリーン文字：現在開発が進められている新技術

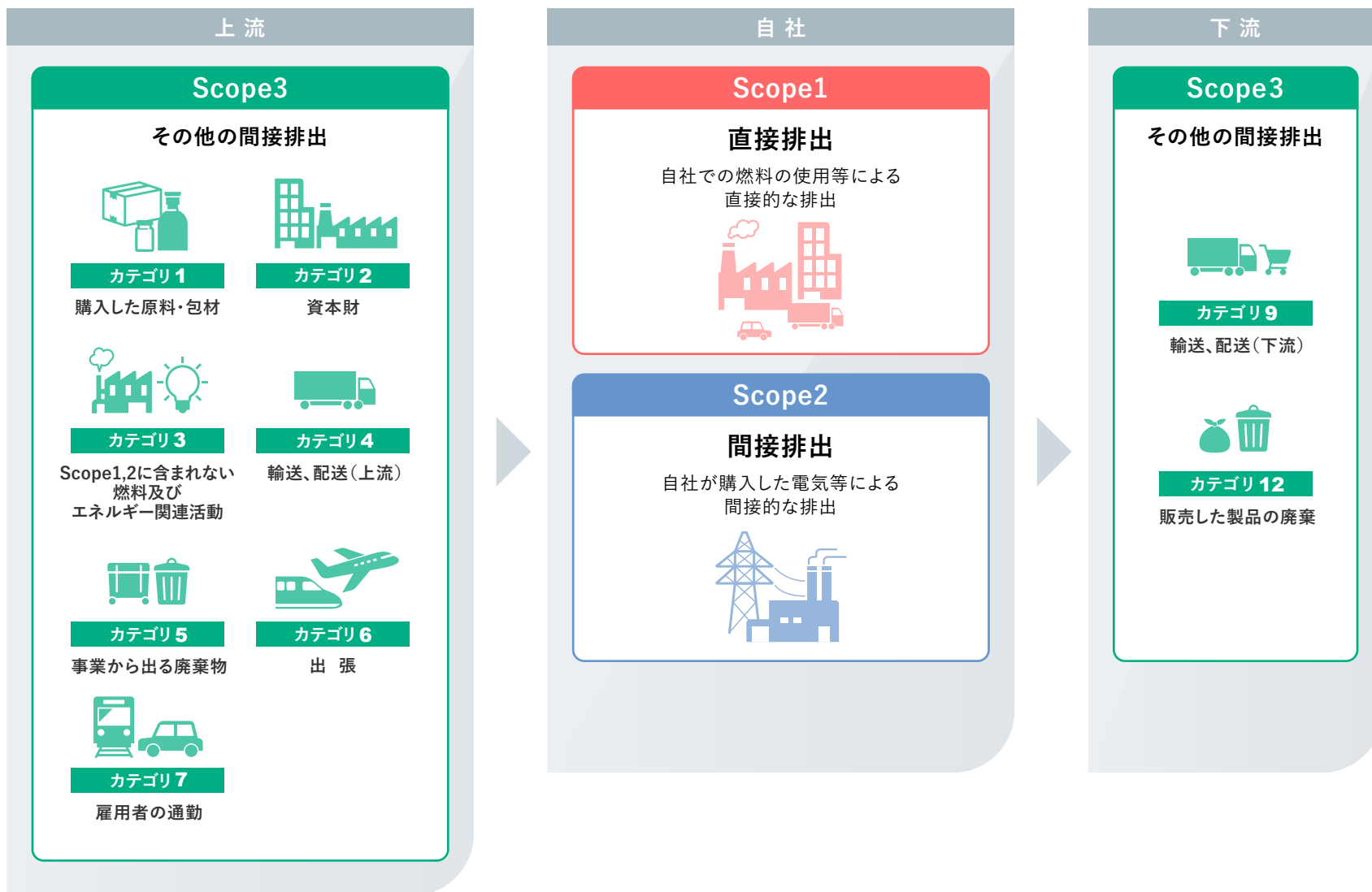
# ロードマップ | Scope1、Scope2



【試算条件】KPI再エネ電力比率2030年度50%、電力CO<sub>2</sub>排出係数はIEAの2050年ゼロシナリオに基づく。SBT認定の数値

\*SBT認定の基準年度排出量は、2019年度のCO<sub>2</sub>排出量 (Scope1, 2) から車両に関わるCO<sub>2</sub>排出量を除いた数値

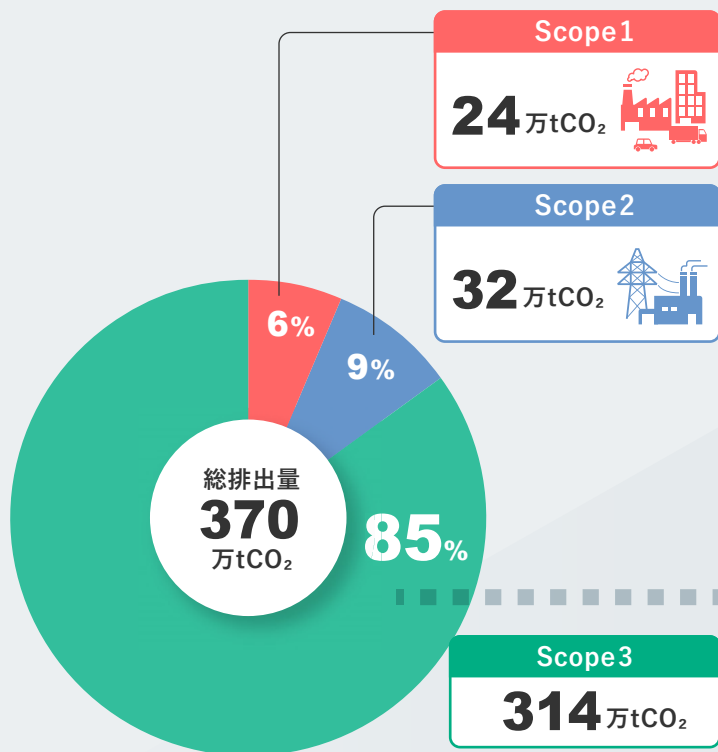
# サプライチェーン | Scope3



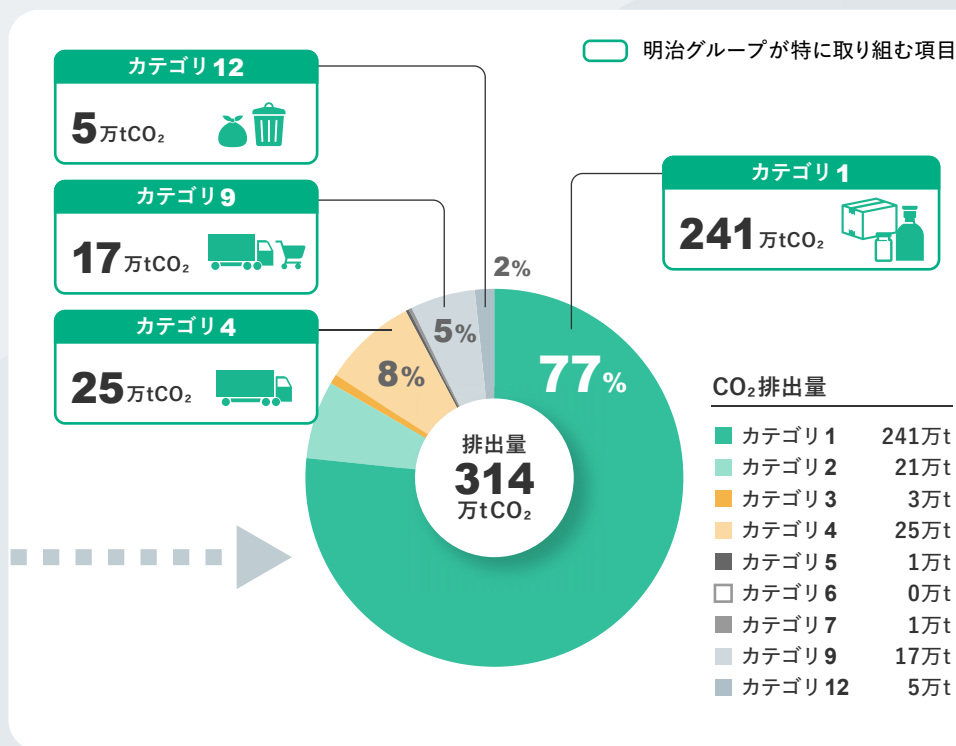


# CO<sub>2</sub>排出量の内訳

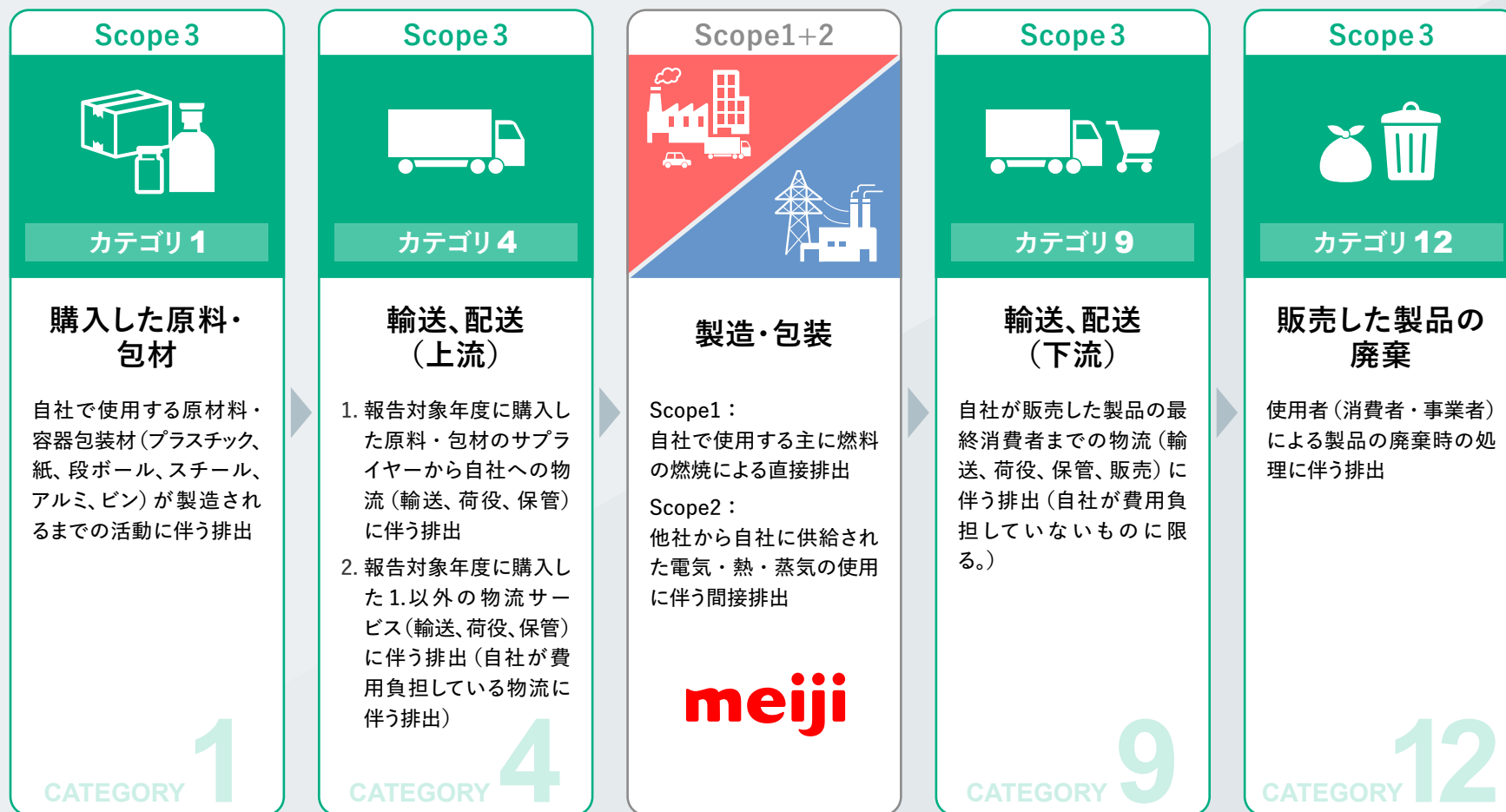
明治グループのCO<sub>2</sub>総排出量(2020年度)



明治グループがScope3の中で対象とする  
カテゴリごとのCO<sub>2</sub>排出量(2020年度)



## 対象カテゴリの詳細



# Scope3における取り組み | カテゴリ1



カテゴリ 1

## Scope3の77%を占めるカテゴリ1のCO<sub>2</sub>削減

カーボンニュートラルの実現に向けて、サプライヤーにCO<sub>2</sub>削減を積極的に働きかけ、協働して取り組んでいきます。主要サプライヤーとは、CO<sub>2</sub>削減の目標設定や取組状況などの実態を把握した上で、エンゲージメントを進めています。

### 生乳・乳原料

#### 主要原料である生乳・乳原料への対応

世界的な酪農乳業の連合体であるGDP (Global Dairy Platform) の会員企業として、GDPの掲げる「酪農乳業ネット・ゼロへの道筋」に沿って、日本酪農乳業協会 (Jミルク) などの業界団体や産官学と十分に連携をとって、カーボンニュートラルを野心的に進めていきます。

#### 明治独自の活動「Meiji Dairy Advisory (MDA)」

酪農家の経営を支援する明治独自の活動MDAでは、生乳の生産量を増加させることで、温室効果ガス排出の削減にも繋がっています。

#### 低炭素酪農・カーボンプレジットなどの研究

メタン産生を抑制する飼料開発の検討や、糞尿処理の方法について研究しています。



MDA実施例: 乳牛の体調や採食行動をチェックする等、現場立会を通じた「改善活動」

# Scope3における取り組み | カテゴリ1



カテゴリ 1

## カカオ

### CFIへの参画・アグロフォレストリー農法などの推進

森林の保護・回復を目的とした世界的パートナーシップ、「Cocoa & Forests Initiative」に参画し、ガーナ政府や関連団体と協力しながら、森林保全に取り組んでいます。また、ブラジル・トメアスーのカカオ農家とともに森をつくる農業「アグロフォレストリー農法\*」を推進し、森林保全に取り組んでいます。

カカオ農家を支援する明治の独自の活動「Meiji Cocoa Support」では、井戸の寄贈・苗木の無償配布・営農指導などを行い、CO<sub>2</sub>の吸収源である森林の保全につながる活動を行っています。

\*「アグロフォレストリー農法」とは、アグリカルチャー（農業）とフォレストリー（林業）をかけた造語造語です。森林伐採後の土地に自然の生態系にならった多種の農林産物を共生させながら栽培する農法です

[https://www.meiji.com/sustainability/cocoa/forest\\_protection/](https://www.meiji.com/sustainability/cocoa/forest_protection/)

## パーム油

### 「RSPO 認証パーム油」への切り替え推進

2023年度にRSPO (Roundtable on Sustainable Palm Oil) 認証パーム油への100%切り替えに向けて取り組んでいます。これにより森林破壊を防止することで、CO<sub>2</sub>吸収を促進しています。



「メイジ・カカオ・サポート」の営農指導では、気候変動に適応する栽培法、森林減少を食い止める農業のあり方など、具体的なアクションを指導しています



アグロフォレストリー農法で作られたブラジルトメアスー産カカオ豆を使用した商品

# Scope3における取り組み | カテゴリ4,9,12



カテゴリ4

## 製品製造・配送・廃棄時のCO<sub>2</sub>削減

### プラスチック

#### 2030年度までにプラスチック使用量を25%削減(2017年度比)

プラスチック容器包装を軽量化することで、製品製造・配送・廃棄時におけるCO<sub>2</sub>削減を図っています。また、サプライヤーなどと協働して、製品の品質を担保しながら容器包装の原料を化石燃料由来のプラスチックから環境負荷の小さいサステナブル素材への切り替えを進めます。

#### 2021年よりバイオマスプラスチック配合容器への切り替えを開始

2021年2月よりストローやプラスチックカップなどの容器包装にバイオマスプラスチックの配合を開始しました。さらに、2022年7月からは順次、「明治おいしい牛乳」のキャップなどに使用しているプラスチックについて、バイオマスプラスチックへの切り替えを実施します。これにより、容器のCO<sub>2</sub>排出量については、従来比で約10%~15%の削減\*を目指します。

\*CO<sub>2</sub>削減率はCarbon Trustの認証を受けています

バイオマスプラスチック  
配合商品の一例



カテゴリ9



カテゴリ12

### 紙

#### 2023年度に紙原材料(古紙やFSC®\*等の森林認証紙)に100%切り替えを予定

2023年度までに製品の容器包装材を環境に配慮した紙原材料(古紙やFSC®\*等の森林認証紙)に100%切り替えます。これにより森林破壊を防止することで、CO<sub>2</sub>吸収を促進しています。

\*FSC® (Forest Stewardship Council®、森林管理協議会)：世界的な森林管理・普及・認証のNPO



## CARBON NEUTRALITY BY 2050

明治グループは、CO<sub>2</sub>排出量をサプライチェーン全体でゼロにする「カーボンニュートラル社会」の実現を目指して積極的な取り組みを進めています。また、その取り組みを企業成長の機会と捉え、経済社会システム全体への変革（GX: Green Transformation）へ挑戦していきます。

私たち明治グループは、食と健康のプロフェッショナルとして、「人も、地球も、健やかな未来へ」を目指して、常に一步先を行く価値を創り続けてまいります。